

雨降りお月さん  
七つの子  
四丁目の犬  
木の葉のお船  
蛙の夜廻り  
青い眼の人形  
證城寺の狸囃子  
シャボン玉  
赤い靴  
十五夜お月さん  
流泊  
旅人の唄  
波浮の港  
人買船  
信田の藪  
哀別  
佐渡ヶ島  
春の唄  
二十三夜  
粉屋念仏  
捨てた葱  
船頭小唄  
その他

名曲の詩心を探る  
**野口雨情と  
その時代**

2019年10月18日[金] 17:30開場

旧東京音楽学校奏楽堂 | 重要文化財 |

全席自由:2,000円

お話 18:00~

野口不二子

野口雨情の直孫・野口雨情生家資料館代表

コンサート 18:30~

吉田 顕

[テノール]

糸賀真知子

[ソプラノ]

小松奈津子

[ソプラノ]

佐々木笑美子

[ソプラノ]

田邊ひかり

[ソプラノ]

中村更紗

[ソプラノ]

安原道子

[ソプラノ]

上田麻衣子

[ピアノ]

友井啓子

[ピアノ]

主催◎雨情会 協力◎金の星社

後援・協賛◎野口雨情記念湯本温泉 童謡館

※曲目の変更がある場合がございますので予めご了承ください。

野口雨情と「金の船」

野口雨情は、明治15(1882)年、現在の北茨城市磯原に生まれる。後に北原白秋、西條八十とともに、日本童謡三大詩人と称されるが、白秋のすがすがしい律動感、八十の繊細的な抒情、そして雨情は自然観の強くあふれた普遍的なものとして、多くを語られる。雨情は、童謡、創作民謡等およそ2000余篇といわれる多くの作品を発表するが、そのうち童謡は800篇といわれる。大正8年、雨情をしたう西條八十の紹介で児童文芸雑誌「金の船」(現金の星社・創刊大正8年)創業者、斎藤佐次郎を知る。この出会いは、後に多くの名作を世に送り出す礎となり、童謡は「童心性から生まれる」と、大正デモクラシー思潮をきっかけとして盛んになった童謡普及活動を主導し、雨情は、中央詩壇において不動のものとなる。また雨情の詩心を深く理解した旧東京音楽学校出身作曲家、本居長世、中山晋平、藤井清水によって曲譜を得たことも、好運であった。

後に新民謡、歌曲と新しい道を切り拓くことになる。あれから100年、“日本の心”として今なお歌い継がれる名曲を、新たな時代に想いをよせて、お届けいたします。



野口雨情(1882年5月29日~1945年1月27日)



野口雨情とその時代

2019年10月18日[金]  
旧東京音楽学校奏楽堂 | 重要文化財 |



2018年11月リニューアルされた奏楽堂

Photo:小清水香織

台東区立旧東京音楽学校奏楽堂

旧東京音楽学校奏楽堂は、東京藝術大学音楽学部の前身、東京音楽学校の施設として、明治23年に建築され、日本における音楽教育の中心的な役割を担ってきました。2階の音楽ホールは、かつて瀧廉太郎がピアノを弾き、山田耕筰が歌曲を歌い、三浦環が日本人による初のオペラ公演でデビューを飾った由緒ある舞台です。



※駐車場・駐輪場はございません。電車などをご利用ください。

旧東京音楽学校一般開館日に本コンサートの半券を受付にご提示いただくと、入館料が団体料金に割引となります。(1回限り)

お問い合わせ・チケット申込み◎雨情会事務局 090-4679-4574 [友井啓子] michikojoy@hotmail.com [安原道子]